

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年	
310004	X-21-B-2-310004	2	後期	【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	2年	
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース				
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	2年	
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	2年	
国際研究ゼミナール2	小山田 紀子			【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×	
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×	
		【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×			
		【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×			

#### ゼミテーマ・タイトル

激動の中東を読み解く—なぜテロ事件は多発するのか—  
日本の外国人と多文化共生について考える  
以上2つのテーマを取り上げる。

#### 内容

2015年、フランスで2つのテロ事件が起こった。それに先立つ2005年のパリ郊外の移民暴動とは異なる事件である。この10年間にフランス社会はどう変わったのか。フランスという国の歴史と現在を、フランス帝国主義の歴史と移民問題を中心に考える。

第2に、2011年1月に勃発したチュニジアのジャスミン革命とその後の中東諸国での「アラブの春」と呼ばれる民主化のうねりをたどる。しかしそれは現在シリア内戦とイスラム国の出現という事態に立ち至っている。シリア内戦はアサド政権と反体制派、さらに過激派組織ISの3つともえのアクターが複雑な戦闘状況を生み出しており、シリアから大量の難民がヨーロッパに押し寄せている。このような中東の混迷状況は2001年の9.11事件とその後のアメリカによる対テロ戦争（イラク戦争）にまで遡らなければならないであろう。

最後に、以上のような中東とヨーロッパの歴史的对立の構図から生み出されている国際社会の問題は、日本とはどのようにかかわっているのだろうか。日本という国についても考えてみたい。

1. フランス帝国主義とテロリズム

2005年秋の移民暴動

2015年1月シャルリ・エブド事件

11月パリ同時多発テロ

2. 2011年「アラブの春」—その後

チュニジアのジャスミン革命

エジプト

リビア

シリア内戦

3. イスラム国（過激派組織IS）の出現とその背景

4. 日本の外国人労働者問題（移民政策）—フランスの移民問題との比較

毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

#### 使用予定テキスト

1. 谷川稔・渡辺和行編著『近代フランスの歴史—国民国家形成の彼方に』ミネルヴァ書房

J-F.ゲイロー、D.セナ、私市正年訳『テロリズム 歴史・類型・対策法』白水社（文庫クセジュ）2008年

山本三春『フランス ジュネスの反乱』大月書店、2008年。

パトリック・フォール・ジャン・フィリップ 著、小林修訳『ジダン—物静かな男の肖像』阪急コミュニケーションズ、2010年

鹿島茂ほか編『シャルリ・エブド事件を考える』白水社、2015年

2. 宮治一雄・宮治美江子編著『マグリブへの招待—北アフリカの社会と文化—』学図書出版

バンジャマン・ストラ著、小山田紀子・渡辺司訳『アルジェリアの歴史』明石

書店

水谷周『アラブ民衆革命を考える』国書刊行会

酒井啓子 編著『〈アラブ大変動〉を読む—民衆革命のゆくえ』東京外国語大学出版会

3. 常岡浩介『イスラム国とは何か』旬報社、2015年

別府正一郎、小山大祐『ルポ過激派組織IS—ジハードを追求—』NHK出版、2015年7月

4. 依光正哲編著『日本の移民政策を考える—人口減少社会の課題—』明石書店、2005年

陳天璽『無国籍』新潮社、2005年

根本かおる『日本と出会った難民たち 生き抜くチカラ、支えるチカラ』英治出版 2013年

桜井啓子『日本のムスリム社会』ちくま新書、2003年

店田廣文『日本のモスク』山川出版社、2015年

など

#### ゼミの進め方

第1回目のゼミで、テキスト輪読のための各自の報告分担を決める。毎回、報告者は担当箇所のレジュメを用意して配布し発表する。報告の当たっていない学生もテキストを読んできて、必ず1回は質問や意見を述べ議論に参加する。各テキストを読み終える毎に、レポートを作成し提出してもらう。

#### 成績評価基準

ゼミでの報告内容、レポート、出席状況、ゼミ活動に意欲的に取り組んでいるか等により総合的に評価する。

#### ゼミ選択上のアドバイス

今世界で何が起きているのか、そしてそれは私たちの生活とどのように関わっているのか、この二つの問題を結びつけて考えたいと思っている人はこのゼミを選択してほしい。政治・経済・社会のあらゆる分野でグローバル化が進む現代にあって、私たちは世界各地で起きていることに無関心ではありえないはずだ。毎日、新聞やテレビなどから送られてくる世界の情報を敏感にキャッチする眼を養い、私たちの生きていく道をひとりひとり考えてみよう。

#### その他

小山田担当の授業「現代イスラム論」を受講しているか、これから受講予定の学生が履修することが望ましい。

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年	
310004	X-21-B-2-310004	2	後期	【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	2年	
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース				
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	2年	
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	2年	
国際研究ゼミナール2	山田 裕史			【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×	
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×	
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×	
		【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×			
ゼミテーマ・タイトル								
市民による国際協力の実践								
内容								
国際協力について学ぶゼミです。								
<p>国際協力は、何のために、誰が、どのように行うものなのでしょうか。また、グローバル化が進んだ世界に生きる市民として、私たち一人ひとり、日常生活のなかでどのように国際協力を実践できるのでしょうか。このゼミでは、国際協力に関する文献やドキュメンタリー、ワークショップを通じて、これらの問いについて考え、議論します。</p> <p>また、図書館での文献・資料など情報の探し方やプレゼンテーションの仕方、レポートの書き方など、大学生として不可欠な学びの技法をしっかり身に付けます。</p> <p>以上の学びを実践するために、学期末にはグループごとに関心のある国際協力の分野を選び、その分野においていま何が問題となっているのかを調べ、それを解決するために私たち一人ひとりがどのようなことを実践できるのかを考え、発表してもらいます。</p> <p>なお、希望者がいれば、カンボジアまたはベトナムをフィールドに国際協力の現場を訪問する、スタディ・ツアーの実施も検討します。毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。</p>								
使用予定テキスト								
<p>今年度は最初に以下の書籍の一部を読み、その後は履修者の関心を聞きながら相談して決めます。</p> <p>西あい・湯本浩之編著『グローバル時代の「開発」を考える』明石書店、2017年</p> <p>国際協力の具体的なテーマについて把握するには、以下の書籍に目を通しておくことを勧めます。</p> <p>一般社団法人 Think the Earth『未来を変える目標：SDGs アイデアブック』紀伊國屋書店、2018年</p> <p>内海成治編『新版 国際協力論を学ぶ人のために』世界思想社、2016年</p>								
ゼミの進め方								
(1) 文献講読・ドキュメンタリー鑑賞と討論、(2) 各グループの研究に関する発表、を組み合わせで行います。また、学期末にはグループで発表した内容を、各自レポートにまとめます。								
成績評価基準								
(1) 出席、(2) 文献講読と討論の内容、(3) グループ発表の内容、(4) レポートの内容、をもとに総合的に評価します。グループ発表に対するフィードバックとして、評価シートにもとづく講評を行います。								
ゼミ選択上のアドバイス								
<p>「国際協力論」の授業を履修済であるか、または本ゼミとあわせて履修することを勧めます。</p> <p>また、グループでリサーチや発表の準備を行うため、ゼミの時間以外にもグループごとに集まって作業することが求められます。</p> <p>国際協力について学ぶだけでなく、国際協力にかかわる学生団体に活動したり、日常生活においても身近な国際協力を実践したりする、意欲的な学生の履修を期待します。</p>								
その他								

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年	
310004	X-21-B-2-310004	2	後期	【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	2年	
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース				
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	2年	
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	2年	
				【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×	×
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×	×
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×	
ゼミテーマ・タイトル								
「現代の社会問題と私たち」（前期・後期同一テーマ）								
内容								
<p>国際研究ゼミナール1・2は基礎ゼミナールの延長線上にあると僕は考えています。ものを読み、考え、議論し、それを文章にまとめるという作業は基礎演習と同じです。しかしこのゼミで中心になるのは基本的な読解力を前提とした上での議論です。</p> <p>今年度の細かいテーマは未定です。ただし「現代社会は多くの問題をかかえていて、その多くの問題と人間一人ひとりが生きにくいという事実は関連している」という基本的認識はずれることはありません。特に先進資本主義国に特有の諸問題を取り扱う予定ですが、どんな事例を議論するときにも他人事としてではなく自分の問題として考えることを要求します。</p> <p>たとえば現在、世の中で多くの人が殺されています。その「殺人」という行為には変わりがなくても、それら多くの殺人を私たちは細かく差異化していきます。テロリストによる虐殺、法治国家における死刑、正当な防衛行為、教育の「行き過ぎ」としての体罰、英雄的戦功、医療過誤、テロ根絶のための必要悪、反逆者の処刑、武装蜂起に対する秩序維持……など、呼び方はいろいろです。しかしすべての行為が「人が人を殺す」という点においては同じです。こうした呼称の差異という問題は、そのままそれらの人殺しという行為と私たちの関係を明らかにしていくはずで、その関係の総体が現代社会を構成していると考えられませんか。</p> <p>こうしたことについて「そんなもん知るか。全部違うのは当たり前だろ」と言って開き直るのは、現在の社会のありかたをまったく批判していないということです。目の前の世界を「快適」だと思いこんでいるということで、それは実は何も考えてないということを表明しているだけです。酸素を吸って二酸化炭素を吐いているだけです。マレーシアの森林資源のためにはなっているでしょうが、人生の意義は限りなく低いでしょう。何かを考えて1日生きるのと、何も考えずに5万年生きるのを比較すれば、それは前者のほうがはるかに人間として意義深いと僕は考えます。</p> <p>毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。</p>								
使用予定テキスト								
<p>田中克彦 『ことばと国家』 岩波新書  鶴見俊輔 『戦時日本精神史』 岩波書店  小倉千加子 『セックス神話解体新書』 ちくま文庫  フロム 『自由からの逃走』 東京創元社  杉田敦 『デモクラシーの論じ方』 ちくま新書</p> <p>以上を候補としていますが、初回に参加者と相談して決定します。</p>								
ゼミの進め方								
<p>テキストを全員で講読します。全体の進行を担当する「司会」、内容の要旨を報告する「レポーター」と、その内容を批判する「コメンター」を中心に議論を進めます。ゼミ生はこのみっつの役割を順番に担当します。各テキストの読了後にはそのテーマについてのレポートを書いてもらいます。</p>								
成績評価基準								
<p>出席を重視します。各セメスター2回までは欠席しても単位を出します。3回以上欠席すると単位は出ません。欠席の理由は問いません。バイトでも風邪でも、欠席は欠席です。</p>								
ゼミ選択上のアドバイス								
<p>自分をだまさないことです。大学生活を言い訳の多い4年間にしてしまうと、それは癖になります。その後の人生でも同じ状況が続く危険性は高いでしょう。ですから本当は遊びたいのにきついゼミを選んだりすれば、教師も学生もお互い不幸になるのは明らかです。そしてこのゼミはきついゼミです。そここのところをよくよく考えてください。勉強したい人、議論したい人にとっては意味のあるゼミにしたいと考えています。</p>								
その他								

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年	
310004	X-21-B-2-310004	2	後期	【1年次生】国際学部国際化学科	専門	必修	2年	
				【1年次生】国際学部国際化学科英語集中コース				
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際化学科	専門	必修	2年	
				【2年次生以上】国際学部国際化学科英語集中コース	専門	必修	2年	
				【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×	
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×	
				【3年次生以上】情報化学学部情報システム学科経営コース	×	×	×	
国際研究ゼミナール2	澤口 晋一			【3年次生以上】情報化学学部情報システム学科情報コース	×	×	×	

ゼミテーマ・タイトル

新潟の地理を題材に、調べ、分析・整理し、プレゼンする力を養う。

内容

ゼミや卒論指導で学生と接して毎年強く感じることは、今の学生は（昔からそうだったのかもしれないが）「自分で調べる力が圧倒的に弱い（あるいはその気力が無い）」ということです。テキストを講読しても書かれてある文章を短くして言うだけで、それはどうということ？と問うとほとんど何も答えられない。つまりわかっていないのである。説明するということがどうということか理解できていないのである。これでは講読（発表）自体が無意味である。

このゼミでは、新潟に関する地理的事象を1000字ほどで記述した簡略な文章の中からより深く調べられる記述を複数選定してもらい、それをできる限り詳しく調べなおして、発表するというものです。そのために時間をかけて色々な資料を探しだしてもらいます。その資料を内容に応じて加工し、資料にものを言わせる形で整理しまとめてもらいます。発表までに私との個々のやり取りを最低でも3回行い、内容をより深く充実したものとしていきます。このような過程を通じて、資料の扱い方とプレゼンの方法を学んでもらいます。発表までの準備期間は最低でも3週間かけてもらいます。付け焼刃で準備したものは報告させません。

毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

使用予定テキスト

鈴木郁夫・中田 勝・田中和徳『新潟ものしり地理ブックⅡ』新潟日報事業社。2013年。

ゼミの進め方

1回のゼミで2人発表。発表には必ずパワーポイントを使用します。

成績評価基準

取り組み姿勢、発表内容、レポートにより評価。

ゼミ選択上のアドバイス

地理的な事項に興味・関心のある人が望ましいが、それ以外でも調べる力を身に付け、パワポで発表するというスキルを身に着けたい人。

その他

上述したように、発表は全員パワーポイントを使用します。今は、企業でも官公庁でも会議等での報告はほぼパワーポイントを使用します。効果的でわかりやすいパワーポイントの作成技術が誰にでも求められています。パワポを否定的にとらえる教員もまだいますが、それは時代錯誤といっていでしょう。パワポの発明と浸透によって、少なくとも理系・情報系の分野のプレゼンは革命的に変わったといって過言ではありません。このゼミでは、どうやって効果的なパワポ画面を作成し、それをどう使いながらプレゼンするのか、といったことも、個々人に丁寧に指導します。

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年	
310004	X-21-B-2-310004	2	後期	【1年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	2年	
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース				
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	2年	
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	2年	
				【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×	
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×	
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×	
国際研究ゼミナール2	瀬戸 裕之			【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×	

ゼミテーマ・タイトル

東南アジアの地域形成を考える

内容

【ゼミの目的】

本ゼミでは、東南アジアの地域形成を学びながら、日本とアジアについて考えることを目的とします。

東南アジアは、現在、世界の中でも経済発展が目覚ましい地域であり、日本企業も多く進出しています。また、毎年、多くの観光客が訪れており、日本との関係が深い地域です。さらに、アジアで唯一、地域統合が進みつつあり、2015年末には、ASEAN 共同体が発足するなど、今後の展開が注目されています。その一方で、近年では、中国との間での領土紛争などが話題になっています。

今後、東南アジアは、どのような方向に発展していくのでしょうか。また、日本は、それにかかわっていくべきなのでしょうか。安全保障や経済関係という視点を超えて、東南アジアとの間でより深い関係をつくるためには、東南アジアがどのように形成されてきたのか、日本と東南アジアがどのような位置づけにあるのか、という点について、長期的な視点から考えてみるのが重要であると考えます。

本ゼミでは、岩崎育夫著『入門 東南アジア近現代史』と一緒に読みながら、東南アジアに対する理解を深めたいと考えています。さらに、ゼミでの報告を通じて、専門書の読み方、内容のまとめ方、レジュメの作成の仕方、文献の引用の仕方、発表の方法、質疑応答の方法など、3年次、4年次に専門的なテーマを学習するための方法について学びます。

毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

使用予定テキスト

岩崎育夫著『入門 東南アジア近現代史』（講談社現代新書）、講談社、2017年。

※受講者に、必ず購入してもらいます。

ゼミの進め方

学生が本の各章を担当し、内容をまとめ、レジュメを作成してゼミ内で報告します。報告内容に基づいて、学生が報告者に質問し、必要であるときには教員が補足説明をします。報告をする学生は、本に書いてある内容について、他の学生が理解できるように情報を集めて補足することが求められます。

成績評価基準

学生によるゼミへの参加と報告内容に基づいて成績を出します。具体的には、(1) ゼミへの出席・授業態度 (25%)、(2) 担当した章に関する発表内容と取り組みへの姿勢 (50%)、(3) ゼミでの発言やディスカッションへの参加 (25%)、に基づいて評価します。

ゼミ選択上のアドバイス

ゼミに参加する学生は、自らが担当する部分以外の章についても事前に読み、内容を予習してください。また、ゼミでの質疑応答、ディスカッションに積極的に参加することが求められます。

その他

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習